

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 小池 綾子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修
【授業の目的・ねらい】 人間の理解を基準として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護福祉の倫理的課題について対応できるための基礎を養う。			
【授業全体の内容の概要】 人間の自己理解・他社理解、人権尊重とアドボカシー及び自立支援と支援者・被支援者との関係を理解し、よりよい対人援助者としての基礎をつくる。			
【授業終了時の達成課題(到達目標)】 ・「人間」の理解を図る。 ・人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解する。 ・介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数	授業内容		
1	オリエンテーション		
2	人間の尊厳と人権・福祉理念	人間の尊厳と利用者主体①	
3	人間の尊厳と人権・福祉理念	人間の尊厳と利用者主体②	
4	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権思想と潮流とその具現化	
5	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権や尊厳に関する日本の諸規定	
6	人間の尊厳と人権・福祉理念	社会福祉領域での人権・福祉理念の変換①	
7	人間の尊厳と人権・福祉理念	社会福祉領域での人権・福祉理念の変換②	
8	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権尊重と権利擁護①	
9	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権尊重と権利擁護②	
10	自立のありかた	自立の概念と多様性①	
11	自立のありかた	自立の概念と多様性②	
12	自立のありかた	自立とは	
13	自立のありかた	介護を必要とする人々の自立と自立支援	
14	自立のありかた	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関	
15	まとめ・定期試験		
【使用テキスト・参考文献】 ・「人間の理解」(中央法規) ・作成したプリント		【単位認定の方法及び基準】 試験成績・確認テスト・課題及び意欲、出席要件等を加味し、総合評価とする。(基準:60点以上を合格とする)	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類		授業担当者
人間関係とコミュニケーション 1	(○ 講義 ・ ○ 演習 ・ 実習)		川端 文悟
15回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 1 年 前 期	必修・選択 必 須
[授業の目的・ねらい] 対人援助に必要な人間同士の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得することを目的とする。			
[授業全体の内容の概要]人間関係を形成するために必用な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を講義。演習を通じて学習する			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・人間関係について理解できる・対人関係におけるコミュニケーションが理解できる・組織におけるコミュニケーションが理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1・ガイダンス		人間の誕生と介護の関係	
2・自分と他所の理解		自己覚知・他者理解・ジョハリの窓・自己開示	
3・発達心理学からみた人間関係		発達段階・エリクソンの発達段階説	
4・発達心理学から見た人間関係			
5・社会心理学から見た人間関係		認知・認知フィルター	
6・人間関係とストレス		ストレス・ストレッサー・性格傾向・行動様式	
7・コミュニケーションの概念・基本構造		コミュニケーション・言語的コミュニケーション	
8・コミュニケーションの手段		非言語的コミュニケーション	
9 対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション			
10・対人援助における基本的態度		受容・共感・アサーティブ・ノンアサーティブ	
11・対人援助における基本的態度		受容・共感・傾聴	
12・援助的人間関係の形成とバイステック7原則			
13・援助的人間関係の形成とバイステック7原則			
14・組織におけるコミュニケーション		ブレインストーミング・ティーチング・コーチング	
15・まとめ 定期試験			
[使用テキスト・参考文献] 最新：介護福祉士養成講座 1巻 人間の理解 中方法規		[単位認定の方法及び基準] 試験成績・課題・授業態度・出席要件等を加味し総合評価する（総合	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類		授業担当者
人間関係とコミュニケーションⅡ	(講義 ・ 演習 ・ 実習)		中村 和正
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間(2単位)	2年 後期	必修
【授業の目的・ねらい】 介護実践をチームでマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、チームの運営の基本を学ぶことを「目的」とする。			
【授業全体の内容の概要】 介護の実践におけるチームマネジメントとは、介護の質を高め、よりよいケアを行うために、チームメンバー全員で行う、チームとサービスのための取り組みである。その後、「ケアを展開するためのチームマネジメント」「人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント」「組織の目標達成のためのチームマネジメント」を講義と演習を交えて理解する。これらを通じて、介護実践におけるチームマネジメントを学ぶものである。			
【授業修了時の達成課(到達目標)】 ・ 介護実践におけるチームマネジメントがなぜ必要なのかを理解することができる。 ・ 介護実践におけるチームマネジメントを理解するためのキーワードとなる「組織の運営管理」「人材管理」「チームの運営の基本」について理解することができる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数	授業内容		講義・演習
1	ガイダンス・介護実践におけるチームマネジメントの意義		講義
2	介護実践におけるチームマネジメントの意義		講義
3	ケアを展開するためのチームマネジメント		講義
4	ケアを展開するためのチームマネジメント		講義
5	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント		講義
6	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント		講義
7	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント		講義
8	組織の目標達成のためのチームマネジメント		講義
9	組織の目標達成のためのチームマネジメント		講義
10	組織の目標達成のためのチームマネジメント		講義
11	組織の理念について考える		講義・演習
12	委員会について考える		講義・演習
13	介護福祉士としてのキャリアについて考える		講義・演習
14	まとめ		講義・演習
15	定期試験		講義
【使用テキスト・参考文献】 ・「人間の理解」(中央法規出版) ・作成したプリント		【単位認定の方法及び基準】 試験の点数、学習態度、出席要件等を考慮し、総合評価とする。(基準:60点以上を合格とする)	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 社会の理解A	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 静間 宏治
授業の回数 15	時間数（単位数） 30 (2)	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 個人が自立した生活を営むためには、個人、家族、近隣、地域など、社会の単位で人間を捉える視点が必要である。人間の生活と社会の関わり、自助から公助に至る過程について学びながら社会を理解していく。			
[授業全体の内容の概要] 個人の「生」や「生活」をなぜ社会で支援するのか。介護保険をはじめとした社会保障制度や社会と生活のしくみを学ぶことによって社会と個人の関係を理解する。			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ○生活と社会のしくみが理解できる。 ○地域共生社会の考え方が理解できる。 ○社会保障制度が理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 生活の基本機能 2 ライフスタイルの変化 3 家族の機能と役割 4 社会・組織の機能と役割 5 地域・地域社会 6 地域・地域社会における生活支援 7 地域福祉の発展 8 地域共生社会 9 地域包括ケア 10 社会保障の基本的な考え方 11 日本の社会保障制度の発達 12 日本の社会保障制度のしくみ ①（体系、実施体制） 13 日本の社会保障制度のしくみ ②（年金保険、医療保険、雇用保険等） 14 現代社会と社会保障制度 15 試験			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 社会の理解		[単位認定の方法及び基準] 試験成績・課題・授業態度等を加味し、総合評価する。 （基準： 60点以上を合格）	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類		授業担当者
社会の理解B	（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		静間 宏治
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15	30（2）	2年・前期	必修
[授業の目的・ねらい] 高齢者保健福祉と介護保険制度、並びに障害者保健福祉と障害者総合支援制度を理解し、介護・支援の必要な人々の生活援助の方法、その基礎となる法制度を学ぶ。			
[授業全体の内容の概要] 介護保険制度と障害者総合支援制度について、介護実践に必要な視点から基礎的知識を習得する。また、個人情報保護や生活困窮者支援などの基礎を学ぶ。			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ○介護保険制度について理解できる。 ○障害者総合支援制度について理解できる。 ○介護実践に関連する諸制度について理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 高齢者保健福祉の動向 2 高齢者保健福祉に関連する法体系 3 介護保険制度のしくみ ① 4 介護保険制度のしくみ ② 5 介護保険制度の動向 6 障害者保健福祉の動向 7 障害者保健福祉に関連する法体系 8 障害者総合支援制度 ① 9 障害者総合支援制度 ② 10 障害者総合支援制度 ③ 11 個人の権利を守る制度・施策 12 保健医療に関する制度・施策 13 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策 14 地域生活を支援する制度・施策 15 試験			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
中央法規出版 社会の理解		試験成績・課題、授業態度等を加味し総合評価する。 (基準:60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 手 話	授業の種類 講義・演習	授業担当者 小 川 雅 夫
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間	配当学年・時期 2年 後期 選択
【授業のねらい・目的】 聴覚障害について理解するとともに、言語としての手話を、演習を通して使えるようにする。 【授業全体の内容の概要】 先天性、後天性も含め誰しもが関係しうる「障害」に対し、その状況に陥った人とどのようにコミュニケーションを行っていくべきかを、主として聴覚障害者のコミュニケーション手段の理解を通して探る。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 聴覚障害者について理解し、学習した手話を使って簡単なコミュニケーションができる。		
[授業に日程と各階のテーマ・内容・授業方法] 授業は演習と講義を織り交ぜて行う。手話演習を講義の合間と講義終了時に同内容で行い、定着を図る。 1 言葉による説明がなくても「状況」がわかることについて、「母語」との関係から理解する。 2 様々なコミュニケーション手段を紹介する。併せて手話等の簡単な使い方を知る。 3 聴覚障害教育の歴史とコミュニケーション手段について知る。 4 聾者の手話言語と聴者の会話言語の根本的な違いを知る。 5 会話言語（一次言語）と書記言語（二次言語）の違い、二次言語獲得の必要性について考える。 6 自分自身が二次言語獲得を時期について振り返って考える。 7 手話も言語であるが、状況をすべて伝えることができる万能ではないことを理解する。 8 日本語言語が状況依存（コンテクスト）の高い言語であることを知ったうえで手話を考える。 9 同じ視覚・聴覚障害でも、見え方、聞こえ方、感覚が個々により大きく異なることを知る。 10 聴覚障害者の言語環境および聞こえの程度が、話すことにどのような影響を与えるか考える。 11 聴覚障害者が人工内耳手術を選択する状況、人工内耳の現状を理解する。 12 母語として手話を使う人、第二言語として手話を使う人の違いを理解する。 13 聴覚障害者が社会生活を送る上で感じる様々な困難な状況を事例から知る。 14 手話だけで教育が行われている学校の様子とそこから見える課題、手話の限界について考える。 15 日本人として日本語手話を使うこと、日本手話を使うことの違いを考える。		
[使用テキスト・参考文献] 講義時にプリントを配布 参考文献「視覚聴覚障害者の教育支援」 (淑徳大学)	[単位認定の方法及び基準] 試験成績および課題提出に出席要件を加味し、総合的に評価する。 (基準：60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護現場に役立つ 記録・報告書の書き方		授業の種類 講義・演習・実習	授業担当者 土屋 奈穂子
授業の回数 15	時間数（単位数） 30（2）単位	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 選択科目
〔授業の目的・ねらい〕 介護実習や就職後の介護現場における日誌や報告書の書き方の基礎を習得させる。 介護記録の目的と意義を学び、記録の重要性を理解する。 〔授業全体の内容の概要〕 1. 講義を通じて、記録の意義・目的を理解することができる。 2. 事例を通じて、記録や報告書の書き方を理解することができる。 3. 演習を通じて、わかりやすく簡潔な報告の仕方を理解することができる。 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 書くことへの苦手意識を払拭し、わかりやすく簡潔な日誌や報告書を書く力を身に着ける。 介護記録の重要性を理解し、客観的事実に基づいた記録や報告書を作成する力を身に着ける。			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数 1 オリエンテーション・記録の大切さ 2 記録の意義・目的 3 記録の書き方・基本 4 記録の書き方・基本 5 生活場面で見る記録のポイント 6 生活場面で見る記録のポイント 7 生活場面で見る記録のポイント 8 生活場面で見る記録のポイント 9 実習日誌の書き方 10 実習日誌の書き方 11 実習日誌の書き方 12 ヒヤリハットについて 13 事故報告書の書き方 14 振り返り・まとめ 15 定期試験			
〔使用テキスト・参考文献〕 中央法規出版 介護記録の書き方・読み方・活かし方 書くべきことがよくわかる！介護記録の書き方 作成資料		〔単位認定の方法及び基準〕 原稿作成、意欲、発表態度、出欠要件等を考慮して総合評価する （基準：60点以上を合格とする）	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 家庭 (栄養調理、被服)	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 澤田 江里子 石田 里美
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2)	配当学年・時期 2年 後期	必修・選択 選択
【授業の目的・ねらい】 家庭が共に生きる生活の場の形成を通じて、望ましい生き方や生活の価値など、食生活・衣生活の知識や技術を通し学ぶ。			
【授業全体の内容の概要】 家庭の機能や家庭生活の現代的課題を知り、食生活と健康、食事計画、高齢者、障害者の食生活、被覆の機能、選択と管理、介護と衣生活などについて取り上げる。			
【授業終了時の達成課題(到達目標)】 食生活や衣生活の知識を深め、演習を通し健康に生活するための技術の習得、その重要性を理解できる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
コマ数	授業内容		
1	家庭生活の営み	食生活の基本知識① 食生活と健康、健康と栄養、食物摂取と生体リズム	
2	家庭生活の営み	食生活の基本知識② 栄養素の種類と働き、栄養所要量から食事摂取基準へ	
3	家庭生活の営み	食生活の基本知識③ 食事計画、摂取する食品の種類と量	
4	家庭生活の営み	食生活の基本知識④ 食品と調理、食品の安全性	
5	家庭生活の営み	食生活の基本知識⑤ 高齢者・障害者の食生活、献立作りのポイント	
6	家庭生活の営み	食生活の基本知識⑥ 高齢者・障害者の食生活、献立作りのポイント	
7	家事支援における介護技術(調理実習) ①		
8	家事支援における介護技術(調理実習) ②		
9	家庭生活の営み	衣服生活の基本知識① 被服の役割と機能	
10	家庭生活の営み	衣服生活の基本知識② 被服の素材、繊維の性能	
11	家庭生活の営み	衣服生活の基本知識③ 被服と皮膚衛生、被服の選択、管理	
12	家庭生活の営み	衣服生活の基本知識④ 高齢者・障害者の衣生活、着脱動作適応性	
13	家庭生活の営み	衣服生活の基本知識④ 高齢者・障害者の衣生活、着脱動作適応性	
14	家事支援における介護技術(裁縫) ①		
15	定期テスト(栄養調理、被服)		
【使用テキスト・参考文献】 ・「生活支援技術Ⅰ」(中央法規) ・作成したプリント		【単位認定の方法及び基準】 試験成績・実技・課題及び意欲、出席要件等を加味し、総合評価とする。(基準:60点以上を合格とする)	

授 業 概 要

現場で使える レクリエーション活動援助法	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実技)	授業担当者 加藤 京子
授業の回数 15回	授業数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1年・前期
		必修・選択 選択
【授業の目的・ねらい】 1. レクリエーションを通して「楽しい」を実感し、介護福祉士としての資質を高め、意欲を高揚させる。 2. レクリエーション活動を通して、コミュニケーション・ワークを体験し、広く人間関係を身につけさせる。 3. レクリエーションの種々の素材・アクティビティを体験し、介護福祉士としてのレク援助技術を身につけさせる。 【授業全体の内容の概要】 1. 講義＝レクリエーションとは。レクの意義。介護福祉におけるレクの実践。コミュニケーション・ワークの意義 2. 演習＝レク・プログラムの企画・運営。対象に合わせたレク・ワーク。安全管理の方法。 3. 実技＝アイスブレイキング、ホスピタリティの実践。レク・スポーツ、レク素材提供の技術の取得。 【授業終了時の到達課題】(到達目標) レクリエーションの意義・大切さ体得し、介護福祉士としての資質が高められ、より多くの人々に生きがいを提供することができる人格の形成を目標とする。		
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】コマ数 1 「介護福祉士とレクリエーション」 講義：オリエンテーション。介護福祉とレク 「室内で楽しむレク(1)」 実技：頭を使って楽しむレク 手先を使って楽しむレク 2 「室内で楽しむレク(2)」 演習：リズム遊び歌(肩たたき歌)を体験。自分で考えた肩たたき歌を披露して皆で楽しむ。 実習：「皿回し」体験し、自分なりの工夫をしながら作成 3 「造形(絵画)活動を楽しむレク(1)」 講義：絵具やスタンプ等を使用する造形活動の楽しさ、意義、癒し効果 実技：絵の具を使った様々な造形体験をする。 4 「子どもと楽しむレク」 実技：障害のある子どもと一緒に楽しめる様々なレク体験。 障害のある子どもと一緒に 実習：小さな子どもや障害のある子ども楽しめるレク材を作成→体験して楽しむ。 5 「手先を鍛えるレク・二人で向き合うレク」 実技：簡単な繰り返し作業でできた喜びを味わえる手芸的な活動体験 演習：卓上で二人で向き合いながらできる簡単なレク材の体験→自分なら・・・とアレンジ 1～5を振り返り、レポート作成・提出 6 「じゃんけんを楽しむレク・カードで楽しむレク」 実技：「じゃんけん」をして楽しむレク材を体験する。 実習：カードで楽しむレク材を体験→作成→皆で一緒に楽しむ。 7 「作って楽しむレク(1)」 講義：エコクラフトの意義・自分で工夫する楽しさ・材を集める等心めけておくこと 身近なエコ材料 実習：身近にある様々な材料を使って遊べるレク材を使った活動を体験→作成→皆で楽しむ。 8 「作って楽しむレク(2)」 講義：新聞紙等を使ったレク材の作品例と遊び方 実習：様々な遊び方ができるレク材を作成し、遊び方を工夫して楽しむ。 9 「上達していく自分を楽しむレク」 講義：いきなり難しい活動をするのではなく、対象者の興味・関心や心情に寄り添って易→難へ 実習：やればやるほど上達を感じて楽しめる活動を考える。→レク材作成 ※「8」の活動の仕上げをする。 10 「季節を感じて楽しむレク」 講義：季節ごとの掲示物やイベントを計画・作成・運営していく活動の意義 演習：自分が想定した場における劇発表の計画を練り、台本や用具を作成する。 自分が選んだ季節の掲示物を作成する。 6～10を振り返り、レポート作成・提出 11 「造形活動を楽しむレク(2)」 実習：ストローとモールを使ったオブジェを作って楽しむ。(安全管理)折り紙を使って同様に。 演習：対象者を想定して、作成手順や安全な活動の仕方等の注意点をまとめる。 12 「GWTを体験しよう」 講義：GWTとは？卓上ゲームの楽しみ方 「卓上ゲームを楽しむレク」 実習：GWTを体験し、「振り返り」をする。「囲碁」「将棋」「トランプ」等の世界を知る。→皆で楽しむ。 13 「チャレンジ・ザ・ゲーム」 講義：「チャレンジ・ザ・ゲーム」の概要・意義・活用の仕方等 「ナイン・ブレイク」の遊び方 「少人数でも楽しめるレク」 実習：少人数でもできる活動の体験 「ナイン・ブレイク」の体験→身近な材料で作成 14 「子どもと楽しむレク」 実技：室内遊びの体験 身近な用具を使ったレク体験 「イベントを計画」 演習：室内で行う「お楽しみ会」の計画を立てる。※安全で楽しめる活動 ※人数 ※時間等想定 15 「認知症の方と楽しむレク」 講義：認知症の方とどのように接していくか どんなレク材を準備したら良いか 「まとめ」 演習：対象者を想定した安全で楽しいクラフト作成の計画を立て、講師と一緒に楽しむ。 講義：年間授業のまとめをする。これからの介護福祉士のあり方等を再確認→筆記試験		
【使用テキスト・参考文献】 ・授業担当者の作成資料・持参する文献		【単位認定の方法及び基準】 ・筆記試験の成績・提出させた課題の評価及び意欲的な取り組み・出席要件等を加味し、総合評価する。 (基準：60点以上を合格)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 権利擁護と成年後見制度	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 金津 謙	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 30 (2)	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 選 択
[授業の目的・ねらい] 社会福祉制度は憲法の人権規定を元に制定された法律を根拠としており、憲法の人権規定と社会福祉は密接に関連している。福祉の現場を担当するものとしてそれら法律を「知らなかった」では済まされない。本講においては特に社会福祉と密接した法律問題について検討し、さらなるステップの一助とすることを目的とする。なお、卒業時共通試験の試験対策も行う予定である。法律分野は特に法律用語が難しいので講義を通じて「慣れる」ことも目的としている。 [授業全体の内容の概要] 憲法上保証されている人権規定と、社会福祉関連制度との関わりを通じて、社会福祉制度を理解する。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 1.社会福祉制度と法律の理解する 2.成年後見制度についての習熟 3.介護現場におけるトラブルと法的対処への習熟			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 第1回 法律の全体像 第2回 憲法に規定される基本的人権概論 第3回 基本的人権と社会福祉 第4回 社会権と社会福祉 第5回 高齢者保護と悪質商法①／消費者契約法, 特定商取引法概論 第6回 高齢者と悪質商法②／特定商取引法各論 第7回 高齢者の権利擁護①／成年後見制度概論 第8回 高齢者の権利擁護②／成年後見制度の実務 第9回 日常生活自立支援事業と法律の関わり 第10回 福祉と行政(法)の関わり 第11回 相続と遺言 第12回 福祉と労働 第13回 福祉現場における事故と法的責任①／損害賠償制度概論 第14回 福祉現場における事故と法的責任②／損害賠償制度各論 第15回 まとめ			
[使用テキスト・参考文献] 書籍名「権利擁護と成年後見制度」 著者名 社会福祉士養成講座編集委員会 出版社 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 予習・復習の内容 予習 授業前に指摘した教科書を熟読すること。 復習 授業で配布したプリント、教科書を活用して授業ノートを整理すること。 展開 新聞などで報道される福祉に関する問題について、法的視点から考察する。 成績評価 評価の基準 中間テスト(50%)、期末テスト(50%) 評価の方法 中間テスト(50%)、期末テスト(50%)	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目）	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 三田 健
授業の回数 1 5	時間数（単位数） 3 0 （ 2 ）	配当学年・時期 2 年 ・ 前期	必修・選択 必 修
【授業の目的・ねらい】 児童権利条約の精神に則り改正された児童福祉法1条を中心に、子ども家庭福祉の意義・理念や法体系、制度について理解を深める。			
【授業全体の内容の概要】 国家試験対策を意識しながら、児童福祉法、障害者総合支援法、子ども・子育て新制度における児童への福祉施策、児童の人権、児童虐待、子育て支援などを中心に理解出来るように講義を進め、日々報道される児童問題についても、とりあげていく。又、事例研究などを通して、介護現場において即戦力になれるようにソーシャルワーク（社会福祉援助技術）を高めていく。			
【授業修了時の達成課題（到達目標）】 ○児童の健全育成は、次世代に向けて重要なことである事を、「子どもの権利の重要性」「児童の最善の利益について」を通して理解する。 ○専門的に子ども家庭福祉を学ぶというより、生活の中で、又は介護従事者として、身近に児童をとらえられるようになる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1 講義ガイダンス・なぜこの科目を学ぶのか・児童福祉法制定の意義と子どもの権利保障について 2 児童への福祉施策について（児童福祉法・障害者総合支援法・子ども子育て新制度について） 3 12 種区分の児童福祉施設について 4 ひとり親家庭と母子保健の福祉施策について 5 少年犯罪と少年法について 6 児童福祉の実施機関について 7 要保護児童福祉施策と児童虐待について その1 8 要保護児童福祉施策と児童虐待について その2 9 障害のある児童への福祉施策その1 10 障害のある児童への福祉施策その2 11 児童福祉関係施策を中心に国家試験対策（過去問検証） 12 社会福祉援助技術(ソーシャルワーク) と事例検討 13 試験対策講義その1 14 試験対策講義その2 15 試験実施			
[使用テキスト・参考文献] 授業のたびに、講師がレジュメを準備する		[単位認定の方法及び基準] 試験成績及び受講意欲、出席要件などを加味し、総合評価する。児童福祉関係施策を中心に国家試験対策としてミニ試験を実施する。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類		授業担当者
介護の基本 I	(講義 ・ 演習 ・ 実習)		石田 里美
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	60時間(4単位)	1年 前期	必修
【授業の目的・ねらい】			
介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。			
【授業全体の内容の概要】			
介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。			
【授業終了時の達成課題(到達目標)】			
○複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解し、説明できる。 ○地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解し、説明できる。 ○介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を習得する。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数	授業内容		
1、2	オリエンテーション		
3、4	介護福祉士の基本となる理念	介護の成り立ち 介護福祉を取り巻く状況	
5、6	介護福祉士の基本となる理念	介護福祉の歴史①	
7、8	介護福祉士の基本となる理念	介護福祉の歴史②	
9、10	介護福祉士の基本となる理念	介護福祉の基本理念①	
11、12	介護福祉士の基本となる理念	介護福祉の基本理念②	
13、14	介護福祉士の役割と機能	社会福祉士及び介護福祉士法①	
15、16	介護福祉士の役割と機能	社会福祉士及び介護福祉士法②	
17、18	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士の活動の場と役割①	
19、20	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士の活動の場と役割②	
21、22	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士に求められる役割とその養成	
23、24	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士を支える団体	
25、26	介護福祉士の倫理	介護福祉士の倫理	
27、28	介護福祉士の倫理	日本介護福祉士会の倫理綱領	
29、30	まとめ・定期試験		
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】	
・「介護の基本 I」(中央法規) ・作成したプリント		小テスト・定期試験の結果、及び意欲、出席要件等を考慮し、総合評価する(基準:60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類		授業担当者
介護の基本Ⅰ	(講義・演習・実習)		小池 綾子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間(2単位)	1年 後期	必修
【授業の目的・ねらい】			
前期に学んだことを活用し、「介護を必要とする人」を、ICF・自立支援・個別ケアの観点から捉えるための学習。また、介護におけるチームケア等について理解するための学習とする。			
【授業全体の内容の概要】			
専門用語の定義・個別ケアの必要性を理解し、具体的展開方法までのプロセスを構築する思考力を培う。ICFの概念定義を学び、ICFが共通言語であることの理解を深める。また、資格取得へむけて各単元で学びの確認小テストを行い、介護福祉士としての意識を確立する。			
【授業終了時の達成課題(到達目標)】			
○自立に向けた介護を理解できる。 ○個別ケアの具体的展開方法を理解できる。 ○ICFの考え方を理解できる。 ○リハビリテーションと介護の関連性を認識できる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数	授業内容		
1, 2	オリエンテーション	前期の復習	
3, 4	自立に向けた介護	介護福祉における自立支援	
5, 6	自立に向けた介護	ICFの考え方①	
7, 8	自立に向けた介護	ICFの考え方②	
9, 10	自立支援とリハビリテーション	自立支援とリハビリテーション	
11, 12	自立支援とリハビリテーション	自立支援とリハビリテーション・自立支援と介護予防	
13, 14	自立支援とリハビリテーション	自立支援と介護予防	
15	まとめ 定期試験		
	まとめ		
	定期試験		
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】	
・「介護の基本Ⅰ」(中央法規) ・作成したプリント		小テスト・定期試験の結果、及び意欲、出席要件等を考慮し、総合評価する(基準:60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者
介護の基本Ⅱ			小池 綾子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間(2単位)	1年 後期	必修
【授業の目的・ねらい】 社会福祉士及び介護福祉士を理解するとともに「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習。 また、介護福祉を必要とする人の生活を多様な視点から支えるしくみについて理解するための学習をする。			
【授業全体の内容の概要】 介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、介護を受けて生活する人およびその生活について学ぶ。さらに、フォーマルおよびインフォーマルな支援、地域連携について事例を用いて学びを深める。			
【授業終了時の達成課題(到達目標)】 ○人間の多様性や複雑性を理解できる。 ○高齢者の暮らしの実際、障害のある人の暮らしを理解できる。 ○介護を必要とする人の生活を支えるフォーマル、インフォーマルな支援、地域連携を理解できる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数	授業内容		
1	オリエンテーション	前期の復習	
2	介護福祉を必要とする人の理解	私たちの生活の理解①	
3	介護福祉を必要とする人の理解	私たちの生活の理解②	
4	介護福祉を必要とする人の理解	介護福祉を必要とする人たちの暮らし①	
5	介護福祉を必要とする人の理解	介護福祉を必要とする人たちの暮らし②	
6	介護福祉を必要とする人の理解	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解①	
7	介護福祉を必要とする人の理解	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解②	
8	介護福祉を必要とする人の理解	生活のしづらさの理解とその支援	
9	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	フォーマルサービスとは①	
10	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	フォーマルサービスとは②	
11	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	インフォーマルサービスとは①	
12	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	インフォーマルサービスとは②	
13	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	地域連携	
14	まとめ		
15	定期試験		
【使用テキスト・参考文献】 ・「介護の基本Ⅱ」(中央法規) ・作成したプリント		【単位認定の方法及び基準】 小テスト・定期試験の結果、及び意欲、出席要件等を考慮し、総合評価する(基準:60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類		授業担当者
介護の基本Ⅱ	(講義 ・ 演習 ・ 実習)		石田 里美
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	60時間(4単位)	2年 前期	必修
【授業の目的・ねらい】			
介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしぐみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。			
【授業全体の内容の概要】			
介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしぐみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。			
【授業終了時の達成課題(到達目標)】			
○多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割を機能を理解し説明できる。			
○介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や自己への対応を理解し説明できる。			
○介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解し説明できる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数	授業内容		
1、2	オリエンテーション	1学年後期の復習	
3、4	介護福祉を必要とする人の生活を支える仕組み	介護保険制度	
5、6	介護福祉を必要とする人の理解	障害者総合支援法①	
7、8	介護福祉を必要とする人の理解	障害者総合支援法②	
9、10	介護福祉を必要とする人の理解	インフォーマルサービスの種類	
11、12	介護福祉を必要とする人の理解	地域連携の目的・機関の理解	
13、14	介護福祉を必要とする人の理解	介護における安全の確保	
15、16	介護福祉を必要とする人の理解	リスクマネジメントとは	
17、18	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしぐみ	感染症対策	
19、20	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしぐみ	多職種連携・協働に求められる基本的な能力	
21、22	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしぐみ	保健・医療・福祉職の役割と機能、多職種連携、協働の実際	
23、24	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしぐみ	健康管理の意義と目的、こころの健康管理	
25、26	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしぐみ	身体の健康管理、労働環境の整備	
27、28	まとめ 定期試験		
29、30	定期試験		
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】	
・「介護の基本Ⅱ」(中央法規) ・作成したプリント		小テスト・定期試験の結果、及び意欲、出席要件等を考慮し、総合評価する(基準:60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 川端 文悟
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。 [授業全体の内容の概要] 介護現場で必要とされる人間関係形成のためのコミュニケーション技術を理解することにより、利用者に関わる人々と利用者の関係調整能力を習得する。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] ○人間関係の形成、信頼関係の重要性について理解することができる。 ○介護におけるコミュニケーションの基本を理解することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	授業内容	講義・演習	
1	前期の授業および実習の振り返り	講義	
2	ガイダンス・介護におけるコミュニケーションの基本	講義・演習	
3	介護におけるコミュニケーションの対象	講義	
4	援助関係とコミュニケーション	講義	
5	コミュニケーション態度に関する基本技術	講義	
6	コミュニケーション態度に関する基本技術	講義・演習	
7	小テストおよび解説	講義	
8	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本	講義	
9	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本	講義・演習	
10	目的別のコミュニケーション技術	講義	
11	集団におけるコミュニケーション技術	講義	
12	集団におけるコミュニケーション技術	講義・演習	
13	小テストおよび解説	講義	
14	小テストおよび解説	講義	
15	まとめ・定期試験	講義	
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
「コミュニケーション技術」(中央法規出版)		試験の点数、学習態度、出席要件等を考慮し、総合評価する(基準:60点以上を合格とする)	

授業概要

授業のタイトル コミュニケーション技術Ⅱ	授業の種類 (○ 講義 ・ ○ 演習 ・ 実習)	授業担当者 川端 文悟																																																
15回	時間数(単位数) 30 時間(2単位)	配当学年・時期 2 年 前期																																																
		必修・選択 必須																																																
[授業の目的・ねらい] 情報伝達力の向上。人間関係の構築。問題解決能力。感情理解。キャリア向上。文化的理解。自己表現。これらにより、個人生活や職業での活用力をつける。 [授業全体の内容の概要] 様々な障害を持つ利用者やその家族、同僚との円滑な関係を築くためのスキルの形成。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] 観察力の向上と共にアクティブラーニングの技術や傾聴のスキル向上をし、利用者やその家族の思いを受け止め、多職種との迅速で明確な情報提供できる力をつけ介護の質の向上に寄与できるようになる																																																		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] <table border="1"> <tr> <td>コマ数</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1: ガイダンス</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2: コミュニケーション障害への対応の基本</td> <td></td> <td>コミュニケーション障害への対応の基本</td> </tr> <tr> <td>3: 様々なコミュニケーション障害のある人への支援</td> <td></td> <td>コミュニケーション障害への対応の基本</td> </tr> <tr> <td>4: 様々なコミュニケーション障害のある人への支援</td> <td></td> <td>視覚障害のある人への支援</td> </tr> <tr> <td>5: 様々なコミュニケーション障害のある人への支援</td> <td></td> <td>聴覚障害・構音障害のある人の支援</td> </tr> <tr> <td>6: 様々なコミュニケーション障害のある人への支援</td> <td></td> <td>失語症の人の支援</td> </tr> <tr> <td>7: 様々なコミュニケーション障害のある人への支援</td> <td></td> <td>認知症の人への支援</td> </tr> <tr> <td>8: 様々なコミュニケーション障害のある人への支援</td> <td></td> <td>うつ病・抑うつ状態・統合失調症の人への支援</td> </tr> <tr> <td>9: 利用者の特性に応じたコミュニケーション</td> <td></td> <td>知的障害のある人への支援</td> </tr> <tr> <td>10: 利用者の特使に応じたコミュニケーション</td> <td></td> <td>高次脳機能障害のある人への支援</td> </tr> <tr> <td>11: 家族とのコミュニケーション</td> <td></td> <td>家族との関係づくり</td> </tr> <tr> <td>12: 介護におけるチームのコミュニケーション</td> <td></td> <td>チームとのコミュニケーションとは</td> </tr> <tr> <td>13: 介護におけるチームのコミュニケーション</td> <td></td> <td>記録の技術</td> </tr> <tr> <td>14: 介護におけるチームのコミュニケーション</td> <td></td> <td>会議・議事進行の説明技術</td> </tr> <tr> <td>15: まとめ・試験</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コマ数			1: ガイダンス			2: コミュニケーション障害への対応の基本		コミュニケーション障害への対応の基本	3: 様々なコミュニケーション障害のある人への支援		コミュニケーション障害への対応の基本	4: 様々なコミュニケーション障害のある人への支援		視覚障害のある人への支援	5: 様々なコミュニケーション障害のある人への支援		聴覚障害・構音障害のある人の支援	6: 様々なコミュニケーション障害のある人への支援		失語症の人の支援	7: 様々なコミュニケーション障害のある人への支援		認知症の人への支援	8: 様々なコミュニケーション障害のある人への支援		うつ病・抑うつ状態・統合失調症の人への支援	9: 利用者の特性に応じたコミュニケーション		知的障害のある人への支援	10: 利用者の特使に応じたコミュニケーション		高次脳機能障害のある人への支援	11: 家族とのコミュニケーション		家族との関係づくり	12: 介護におけるチームのコミュニケーション		チームとのコミュニケーションとは	13: 介護におけるチームのコミュニケーション		記録の技術	14: 介護におけるチームのコミュニケーション		会議・議事進行の説明技術	15: まとめ・試験		
コマ数																																																		
1: ガイダンス																																																		
2: コミュニケーション障害への対応の基本		コミュニケーション障害への対応の基本																																																
3: 様々なコミュニケーション障害のある人への支援		コミュニケーション障害への対応の基本																																																
4: 様々なコミュニケーション障害のある人への支援		視覚障害のある人への支援																																																
5: 様々なコミュニケーション障害のある人への支援		聴覚障害・構音障害のある人の支援																																																
6: 様々なコミュニケーション障害のある人への支援		失語症の人の支援																																																
7: 様々なコミュニケーション障害のある人への支援		認知症の人への支援																																																
8: 様々なコミュニケーション障害のある人への支援		うつ病・抑うつ状態・統合失調症の人への支援																																																
9: 利用者の特性に応じたコミュニケーション		知的障害のある人への支援																																																
10: 利用者の特使に応じたコミュニケーション		高次脳機能障害のある人への支援																																																
11: 家族とのコミュニケーション		家族との関係づくり																																																
12: 介護におけるチームのコミュニケーション		チームとのコミュニケーションとは																																																
13: 介護におけるチームのコミュニケーション		記録の技術																																																
14: 介護におけるチームのコミュニケーション		会議・議事進行の説明技術																																																
15: まとめ・試験																																																		
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 コミュニケーション技術Ⅱ		[単位認定の方法及び基準] 試験成績・確認テスト・課題及び意欲、出席要件等を加味し、総合評価する(基準60点以上を合格とする)																																																

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類		授業担当者
生活支援技術Ⅰ	（ 講義 ・ 演習 ）		伊藤 奈津希
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15回	30 時間（2）	1年 前期	必修
[授業の目的・ねらい] 支援の必要な方の日常生活を理解し、その方の状態に合わせた適切な支援ができる知識や技術を習得する。 [授業全体の内容の概要] 生活支援における倫理観と利用者の尊厳を保持することの重要性を学び、その上で利用者の心身の状況に応じた生活支援技術を習得します。具体的には、安全で安楽な生活環境の整備、そして利用者の自立支援に向けた生活支援の展開について、講義と演習を通して体系的に学習します。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 倫理観と尊厳保持に基づいた適切な介護実践、利用者の心身状況に合わせた安全で安楽な生活支援技術の実践、自立支援のための適切な生活環境整備、根拠に基づく自立に向けた生活支援実施ができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.生活とは、根拠に基づく生活支援技術とは① 2.根拠に基づく生活支援技術とは② 3.自立した移動とは① 4.自立した移動とは② 5.自立した移動とは③ 6.自立した移動とは④ 7.自立した移動とは⑤ 8.利用者を理解するための I C F の視点 9.利用者主体の生活支援技術の実践に向けて 10.自立に向けた身支度の介護 11.生活支援とチームアプローチ 12.自立に向けた食事の介護. 13.自立に向けた食事の介護. 14.まとめ 15.定期試験			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
・生活支援技術Ⅰ（中央法規） ・作成したプリント		試験成績、確認テスト、課題及び意欲、出席要件等を加味し総合評価とする。（基準：60点以上を合格とする）	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類		授業担当者
生活支援技術Ⅰ	（ 講義 ・ 演習 ）		伊藤 奈津希
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15回	30 時間（2）	1年 後期	必修
[授業の目的・ねらい] 支援の必要な方の日常生活を理解し、その方の状態に合わせた適切な支援ができる知識や技術を習得する。 [授業全体の内容の概要] 生活支援における倫理観と利用者の尊厳を保持することの重要性を学び、その上で利用者の心身の状況に応じた生活支援技術を習得します。具体的には、安全で安楽な生活環境の整備、そして利用者の自立支援に向けた生活支援の展開について、講義と演習を通して体系的に学習します。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 倫理観と尊厳保持に基づいた適切な介護実践、利用者の心身状況に合わせた安全で安楽な生活支援技術の実践、自立支援のための適切な生活環境整備、根拠に基づく自立に向けた生活支援実施ができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.前期復習 2.自立に向けた入浴の支援① 3.自立に向けた入浴の支援② 4.自立に向けた排せつの支援① 5.自立に向けた排せつの支援② 6.自立に向けた睡眠の支援・終末期ケア 7.自立に向けた家事の介護① 8.自立に向けた家事の介護② 9.生活支援における福祉用具の重要性 10.福祉用具の種類 11.家事の介護における他職種との連携 12.応急手当について・応急手当の実際 13.災害時における介護福祉士の役割・生活支援の実際 14.まとめ 15.定期試験			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
・生活支援技術Ⅰ（中央法規） ・作成したプリント		試験成績、確認テスト、課題及び意欲、出席要件等を加味し総合評価とする。（基準：60点以上を合格とする）	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類		授業担当者
生活支援技術Ⅱ	（ 講義 ・ 演習 ）		伊藤 奈津希
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	60 時間（4）	1年 前期	必修
【授業のねらい・目的】 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。 【授業全体の内容の概要】 ICFの視点を生活に生かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、清潔保持、排せつ、家事、休息、睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 ・対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。 ・生活の豊かさや心身の活性化⁷、自立支援のための居住空間の整備について基礎的な知識を理解できる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
1.2	ガイダンス		
3.4	寝具の整え方		
5.6	自立に向けた移動の介護①②		
7.8	自立に向けた移動の介護③④		
9.10	自立に向けた移動の介護⑤⑥		
11.12	自立に向けた移動の介護⑦⑧		
13.14	自立に向けた移動の介護⑨⑩		
15.16	自立に向けた移動の介護⑪⑫		
17.18	自立に向けた移動の介護⑬⑭		
19.20	自立に向けた身支度の介護①②		
21.22	自立に向けた身支度の介護①②		
23.24	自立に向けた食事の介護①②		
25.26	自立に向けた食事の介護③④		
27.28	実技演習まとめ		
30.31	期末試験（実技）		
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】	
・生活支援技術Ⅱ（中央法規） ・作成したプリント		試験成績、確認テスト、課題及び意欲、出席要件等を加味し総合評価とする。（基準：60点以上を合格とする）	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類		授業担当者
生活支援技術Ⅱ	（ 講義 ・ 演習 ）		伊藤 奈津希
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	60 時間（4）	1年 後期	必修
【授業のねらい・目的】 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。 【授業全体の内容の概要】 ICFの視点を生活に生かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、清潔保持、排せつ、家事、休息、睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 ・対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。 ・健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について理解できるようになる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 1.2 ガイダンス 3.4 自立に向けた入浴・清潔保持の介護①② 5.6 自立に向けた入浴・清潔保持の介護③④ 7.8 自立に向けた排せつの介護①② 9.10 自立に向けた排せつの介護③④ 11.12 自立に向けた排せつの介護⑤⑥ 13.14 自立に向けた排せつの介護⑦⑧ 15.16 終末期ケア 17.18 福祉用具①② 19.20 福祉用具③④ 21.22 福祉用具⑤⑥ 23.24 応急手当 25.26 実技演習まとめ 27.28 実技演習まとめ 29.30 期末試験（実技）			
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】	
・生活支援技術Ⅱ（中央法規） ・作成したプリント		試験成績、確認テスト、課題及び意欲、出席要件等を加味し総合評価とする。（基準：60点以上を合格とする）	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類		授業担当者
生活支援技術Ⅲ	（ 講義 ・ 演習 ）		伊藤 奈津希
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
10回	20 時間	2年 前期	必修
[授業の目的・ねらい] 生活支援技術Ⅰ・Ⅱで学んだ知識・技術を基盤とし、より複雑な状況にある利用者への生活支援技術を習得することを目的とします。 [授業全体の内容の概要] ・実際の事例を通して、アセスメントから支援計画、実践、評価までの一連の過程を学ぶ。 ・講義、演習、事例検討を通して、より専門性の高い生活支援技術を体系的に学びます。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] ・多様な生活課題を抱える利用者の状況を的確にアセスメントし、個別性の高い支援計画を立案できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.2 状態に応じた支援① 3.4 状態に応じた支援① 5.6 事例を通して、アセスメントから支援計画、実践、評価までの一連の過程を学ぶ 7.8 事例を通して、アセスメントから支援計画、実践、評価までの一連の過程を学ぶ 9.10 事例を通して、アセスメントから支援計画、実践、評価までの一連の過程を学ぶ			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
・作成したプリント		試験成績、確認テスト、課題及び意欲、出席要件等を加味し総合評価とする。（基準：60点以上を合格とする）	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術Ⅲ (点字)	授業の種類 (講義 演習 ・ 実習)		授業担当者 井 口 二 郎
授業の回数 8 回	時間数 (単位) 1 6 時間	配当学年・時間 2 年 前期	必修・選択 必 修
[授業の目的・ねらい] 視覚障害の概念、定義、分類について学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 視覚障害の原因による眼疾患とその見え方について学ぶ。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 視覚障害について、その概要を理解し、適切な対応につなげることができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 視覚障害の概念、定義、分類について学ぶ。 2 視覚障害の原因による眼疾患とその見え方について学ぶ。 3 視覚障害からもたらされる困難さを軽減するためにどのような取り組みを行うのかを学ぶ。 4 弱視児の視覚認知を学び、様々な補助具を使用した教育方法を学ぶ。 5 視覚障害者が自立して歩行するための方法について学ぶ。 6 点字の成り立ち、点字の構成など点字とはどのようなものかを理解する。 7 点字の読みと書きを実地を通して理解し、目で読めるようにする。 8 定期試験。総合練習の問題を通して行う。			
[使用テキスト・参考文献] 「片手で2匹つかんだよ～視覚障害教育を初めて学ぶ方のためのテキスト」著者 井口二郎 出版社 白鷗社		[単位認定の方法及び基準] 試験成績・課題及び意欲、出席要件などを加味し総合評価する。 (基準：60点以上)	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 生 活 支 援 技 術 Ⅲ ケア・アート・プログラム（造形）	授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 槇 英子
授業の回数 1 2 回	授業数（単位数） 2 4 時間	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択
[授業の目的・ねらい] 社会福祉の中で、どのようにアートを取り入れ利用者を支援できるか、自らの造形経験を通して、ケア・アート・プログラムを考えられる態度と基礎知識を身につける。 [授業全体の内容の概要] ケア・アートに関わるものを自ら手を動かし創る事で、材料・道具の取り扱い、技術を獲得する為の活動となっている。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] アートが人に与える力を体感し、造形美術表現による自己の回復を援助する事ができる、知識と経験を獲得する事を到達目標とする。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション・用具配布 色と形で自己表現：切り紙 2 仕上げ：壁面装飾作り 3 技法による表現Ⅰ：フロタージュ・マーブリング・デカルコマニー 4 ：スタンピング・ステンシル 5 技法による表現Ⅱ：貼り絵（花をモチーフにして） 6 ：コラージュ（雑誌を使って） 7 カード作り：今まで作った素材を使って 8 ：仕上げ 9 毛糸を使って：段ボールでつくる手織もの・指編み 1 0 ：仕上げ 1 1 パネル・アート：心の表現 1 2 まとめ：展示と相互鑑賞			
各授業を通して、活動内容の意義と展開方法の説明と実技。 (教師作成プリントを必要に応じて配布)		[単位認定の方法及び基準] 課題成績及び意欲、出席要件等を加味し、総合評価する。(基準：6 0 点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類		授業担当者
生活支援技術 Ⅲ	講義 ・ 演習 ・ 実習)		井上 典子
授業の種類	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
8	16	2年 ・ 後期	必修
[授業の目的・ねらい] 対象者のその人らしさを尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることを含めた適切な介護技術とその留意点について学ぶ。安全面に配慮した介護技術や知識について学習する。 [授業全体の内容の概要] 利用者の身体状態・状況に応じた介護技術とは何か、他職種の役割と協働について学ぶ。 [授業修了時の達成課題 (到達目標)] 利用者の幸せとは何かを的確に捉える力と、個別性のある自立や自律、社会参加に向けた生活支援ができるようになる。			
コマ数 1・精神障害に応じた介護 2・精神障害に応じた介護 3・発達障害に応じた介護 4・発達障害に応じた介護 5・知的障害に応じた介護 6・肢体不自由に応じた介護 7・重症心身障害に応じた介護 8・定期試験 まとめ			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法および基準]	
生活支援技術 Ⅲ (中央法規出版)		課題の提出、及び意欲、出席要件等を加味し	
生活支援技術 Ⅲ (メヂカルフレンド社)		総合評価する	
		(基準 : 60 点以上合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術Ⅲ 内部障害	授業の種類 (講義 演習 実習)		授業担当者 原 芙美子
授業の回数 7回	時間数(単位数) 14時間	配当学年・時期 2年 後期	必修・選択 必修
【授業の目的・ねらい】 障害のある人について医学的・心理的側面から理解し、生活支援において介護福祉士が果たすべき役割について学習する。			
【授業全体の内容の概要】 障害に関する基礎的な知識を学び、障害によってどのような生活上の困りごとが生じるのか、その困りごとに対して介護福祉士としてどのようなかかわりができるかを学習する。			
【授業終了時の達成課題(到達目標)】 ・障害について医学的・心理的側面から理解できる。 ・障害のある人の生活上の困りごとを理解できる。 ・障害のある人への支援において、多職種連携の中で介護福祉士が果たすべき役割を理解できる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数		授業内容	
1		内部障害(心臓機能障害)(呼吸器機能障害)に応じた介護	
2		内部障害(腎臓機能障害)(膀胱・直腸機能障害)に応じた介護	
3		内部障害(小腸機能障害)(HIVによる免疫機能障害)に応じた介護	
4		内部障害(肝臓機能障害)、高次脳機能障害に応じた介護	
5		難病(筋萎縮性側索硬化症)(パーキンソン病)に応じた介護	
6		難病(悪性関節リウマチ)(筋ジストロフィー)に応じた介護	
7		まとめ・試験	
【使用テキスト・参考文献】 ・生活支援技術Ⅲ(中央法規)		【単位認定の方法及び基準】 課題の提出、及び意欲、出席要件等を加味し、総合評価する。(基準:60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術Ⅲ リハビリテーション	授業の種類 (講義 演習 実習)		授業担当者 渡辺 志朗
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(4単位)	配当学年・時期 2年 後期	必修・選択 必修
【授業の目的・ねらい】 ・リハビリテーションの理念・役割を理解できる。 ・主要な疾患に対するリハビリテーションの内容を理解できる。 ・リハビリテーションと介護の関係を理解し、自分の言葉で説明できる。 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。 【授業全体の内容の概要】 リハビリテーションの理念を理解することは、介護福祉士を目指すものにとっても重要である。リハビリテーションの基本、障害別リハビリテーションを理解し、それを介護に活かすことができるように知識を身に付け、自分の考えをまとめることができる授業とする。 【授業終了時の達成課題(到達目標)】 ・リハビリテーションの理念、役割、基本的考え方が分かる。 ・主要な疾患に対するリハビリテーションの内容を理解し、ADL支援に活用できる。 ・リハビリテーションと介護の関係を理解し、自立支援の考え方について自分の意見をもつことができる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数		授業内容	
1		リハビリテーションの理念・リハビリテーションが目指すもの	
2		リハビリテーションの最近の動向・リハビリテーションの領域と役割	
3		ICFとリハビリテーション	
4		リハビリテーション評価と介護アセスメント 1	
5		リハビリテーション評価と介護アセスメント 2	
6		脳血管疾患に対するリハビリテーション	
7		運動器疾患に対するリハビリテーション	
8		脳性まひ・小児疾患に対するリハビリテーション	
9		難病に対するリハビリテーション	
10		内部疾患に対するリハビリテーション	
11		補装具・日常生活用具の種類と適応	
12		リハビリテーションからみた基本動作の考え方	
13		自立支援と介護予防・地域連携	
14		期末試験	
【使用テキスト・参考文献】 ・「介護の基本Ⅱ」(中央法規) ・作成したプリント		【単位認定の方法及び基準】 小テスト・定期試験の結果、及び意欲、出席要件等を考慮し、総合評価する(基準:60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類		授業担当者	
介護過程Ⅰ		(講義 ・ 演習 ・ 実習)		土屋 奈穂子	
授業の回数		時間数(単位数)		配当学年・時期	
15		30(1)単位		1年 ・ 前期	
				必修・選択	
				必修	
[授業の目的・ねらい]					
介護過程の意義目的を理解し、介護過程の全体像を把握する。ICFを理解し、客観的・多角的な視点から利用者をアセスメントする必要性を学ぶことができる。					
[授業全体の内容の概要]					
利用者支援において客観的かつ多角的な視点での観察力や考察力の必要性を学ぶ。事例を通じ、アセスメントに必要な情報収集方法や情報の関連付けを理解する。個人ワークやグループワークを通じ、様々な視点や意見に触れ理解を深めることができる。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)]					
介護過程の意義目的を理解し、ICFの視点から客観的・多角的なアセスメントが出来る。ワークや事例検討を通じて利用者の生活課題を導き出すことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1		ガイダンス		介護過程とは	
2		介護過程の意義①		介護過程の意義・目的・全体像の把握	
3		介護過程の意義②		ICFの理解	
4		介護過程の意義③		アセスメントとは 事例ワーク	
5		介護過程の意義④		アセスメントとは 事例ワーク	
6		介護過程の意義④		情報収集の種類と方法・コミュニケーション	
7		介護過程の理解①		情報収集の種類と方法・コミュニケーション	
8		介護過程の理解②		情報収集の種類と方法・コミュニケーション	
9		介護過程の理解③		介護過程の展開・アセスメントの思考方法	
10		介護過程の理解④		介護過程の展開・アセスメントの思考方法	
11		介護過程の理解⑤		介護過程の展開・アセスメントの思考方法	
12		介護過程の意義⑥		介護過程の展開・アセスメントの思考方法	
13		介護過程の意義⑦		介護過程の展開・アセスメントの思考方法	
14		まとめ・振り返り		まとめ・前期授業振り返り・後期授業に向けて	
15		定期試験		定期試験・定期試験解説	
[使用テキスト・参考文献]				[単位認定の方法及び基準]	
中央法規出版					
介護過程				原稿作成、意欲、発表態度、出欠要件等を考慮し、総合評価する	
作成したプリント				(基準:60点以上を合格とする)	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目）		授業の種類		授業担当者	
介護過程Ⅱ		（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		土屋 奈穂子	
授業の回数		時間数（単位数）		配当学年・時期	
15		30（1）単位		1年 ・ 後期	
				必修・選択	
				必修	
[授業の目的・ねらい]					
介護過程の意義目的を理解し、介護過程の全体像を把握する。ICFを理解し、客観的・多角的な視点から利用者をアセスメントする必要性を学ぶことができる。					
[授業全体の内容の概要]					
利用者支援において客観的かつ多角的な視点での観察力や考察力の必要性を学ぶ。事例を通じ、アセスメントに必要な情報収集方法や情報の関連付けを理解する。個人ワークやグループワークを通じ、様々な視点や意見に触れ理解を深めることができる。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
介護過程の意義目的を理解し、ICFの視点から客観的・多角的なアセスメントが出来る。ワークや事例検討を通じて利用者の生活課題を導き出すことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1		ガイダンス		前期振り返り /Bさん事例概要	
2		介護過程の展開 ①		Bさん事例 情報収集/情報分析・情報の関連付け	
3		介護過程の展開 ②		Bさん事例 情報分析・情報の関連付け	
4		介護過程の展開 ③		Bさん事例 課題の明確化・生活課題の捉え方	
5		介護過程の展開 ④		事例② 情報収集(グループワーク)	
6		介護過程の展開 ⑤		事例② 情報分析・情報の関連付け	
7		介護過程の展開 ⑥		事例② 情報分析・情報の関連付け	
8		介護過程の展開 ⑦		事例② 課題の明確化・生活課題の捉え方	
9		介護過程の展開 ⑧		事例③ 情報収集(グループワーク)	
10		介護過程の展開 ⑨		事例③ 情報分析・情報の関連付け	
11		介護過程の展開 ⑩		事例③ 情報分析・情報の関連付け	
12		介護過程の展開 ⑪		事例③ 課題の明確化・生活課題の捉え方	
13		介護過程の展開 ⑫		事例③ 振り返り・まとめ	
14		定期試験		定期試験・解説	
15		振り返り		後期まとめ・次年度に向けて	
[使用テキスト・参考文献]				[単位認定の方法及び基準]	
中央法規出版				原稿作成、意欲、発表態度、出欠要件等を考慮し、総合評価する（基準：60点以上を合格とする）	
介護過程 作成したプリント					

授 業 概 要

授業のタイトル（科目）	授業の種類		授業担当者
介護過程Ⅲ	（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		土屋 奈穂子
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30	30（1）単位	2年 ・ 前期	必修
[授業の目的・ねらい]			
利用者のニーズに応じた計画立案・実施・評価を通じて介護過程の一連の流れを理解できる。自身のアセスメントを振り返り、客観的事実を基に多角的に情報を得て分析する必要性と重要性を理解する。			
[授業全体の内容の概要]			
実習対象者のアセスメント振り返りを行い、修正・改善点を見出す。対象者の計画立案・実施・評価の流れを通じ、介護過程の一連の流れを理解することができる。			
[授業修了時の達成課題（到達目標）]			
利用者の個別性に応じた介護過程の展開を理解し実践できる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1	ガイダンス	介護過程Ⅲについて/前年度の振り返り	
2	介護過程の展開 ①	介護計画の立案について	
3	介護過程の展開 ②	介護実習2 対象者のアセスメント見直し	
4	介護過程の展開 ③	介護実習2 対象者のアセスメント見直し	
5	介護過程の展開 ④	介護実習2 対象者の計画立案	
6	介護過程の展開 ⑤	介護実習2 対象者の計画立案	
7	介護過程の展開 ⑥	介護実習2 対象者の計画立案	
8	介護過程の展開 ⑦	介護計画 実施について	
9	介護過程の展開 ⑧	介護計画 実施・実施準備	
10	介護過程の展開 ⑨	介護計画 経過記録記入方法	
11	介護過程の展開 ⑩	計画実施後の評価	
12	介護過程の展開 ⑪	計画実施後の評価	
13	介護過程の展開 ⑫	評価を踏まえた介護計画の修正	
14	介護過程の展開 ⑬	評価を踏まえた介護計画の修正と再実施	
15	介護過程の展開 ⑭	事例① 利用者の状況・状態に応じた介護過程展開の実際 事例概要/情報収集	
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
中央法規出版 介護過程 作成したプリント		原稿作成、意欲、発表態度、出欠要件等を考慮し、総合評価する（基準：60点以上を合格とする）	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 土屋 奈穂子
介護過程Ⅲ			
授業の回数 30	時間数(単位数) 30(1)単位	配当学年・時期 2年 ・ 前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい]			
利用者のニーズに応じた計画立案・実施・評価を通じて介護過程の一連の流れを理解できる。自身のアセスメントを振り返り、客観的事実を基に多角的に情報を得て分析する必要性と重要性を理解する。			
[授業全体の内容の概要]			
実習対象者のアセスメント振り返りを行い、修正、改善点を見出す。対象者の計画立案・実施・評価の流れを通じ、介護過程の一連の流れを理解することができる。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
利用者の個別性に応じた介護過程の展開を理解し実践できる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
16	介護過程の展開	⑩	事例① 情報収集・分析
17	介護過程の展開	⑪	事例① 情報分析・関連付け・統合化
18	介護過程の展開	⑫	事例① 課題明確化
19	介護過程の展開	⑬	事例① 介護計画立案
20	介護過程の展開	⑭	事例① 介護計画立案
21	介護過程の展開	⑮	事例① 実施・評価
22	介護過程の展開	⑯	事例① 実施・評価 / 振り返り
23	介護過程の展開	⑰	事例② 情報収集
24	介護過程の展開	⑱	事例② 情報収集・関連付け
25	介護過程の展開	⑲	事例② 情報関連付け・統合・課題の明確化
26	介護過程の展開	⑳	事例② 計画立案
27	介護過程の展開	㉑	事例② 実施・評価・計画修正
28	介護過程の展開	㉒	事例② 評価・計画修正後の再実施
29	定期試験		定期試験
30	振り返り		後期まとめ・介護過程Ⅳに向けて
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 介護過程 作成したプリント		[単位認定の方法及び基準] 原稿作成、意欲、発表態度、出欠要件等を考慮し、総合評価する (基準:60点以上を合格とする)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 土屋 奈穂子
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)単位	配当学年・時期 2年 ・ 後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ケアマネジメントの全体像を理解し、ケアプランと個別援助計画の関係性を理解する。利用者支援における多職種協働・連携の重要性と、チームにおける介護福祉士の役割を理解する。 [授業全体の内容の概要] ケアマネジメントの目的や流れを知り、個別援助計画との関係性を理解する。チームケアの必要性・重要性を理解し、チーム内での介護福祉士の役割を理解する。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] 多職種連携・協働の意義・目的を理解し介護福祉士のチームにおける役割を理解することができる。 利用者の個別性に応じた介護過程展開の重要性を理解することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 - ガイダンス ・ 介護過程とチームアプローチ・介護過程とケアマネジメント - 介護過程とケアマネジメントの関係性① ケアマネジメントとは - 介護過程とケアマネジメントの関係性② ケアマネジメントの流れ - 介護過程とケアマネジメントの関係性③ ケアマネジメントの流れ - 介護過程とケアマネジメントの関係性④ ケアプランと介護過程・個別援助計画 - 介護過程とケアマネジメントの関係性⑤ チームとして介護過程を展開する意義 - 介護過程とケアマネジメントの関係性⑤ チームとして介護過程を展開する意義・ケアカンファレンス - チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性① - チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性② - チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性③ - 利用者の生活と介護過程の展開① - 利用者の生活と介護過程の展開② - 利用者の生活と介護過程の展開③ - 振り返り・まとめ - 定期試験			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 介護過程 作成したプリント		[単位認定の方法及び基準] 原稿作成、意欲、発表態度、出欠要件等を考慮し、総合評価する (基準:60点以上を合格とする)	

授業概要

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習Ⅰ	授業の種類 講義 ・ 演習 ・ 実習		授業担当者 専任教員
授業の回数 15	時間数（単位数） 30（1）	配当学年・時期 1年 ・ 前期	必修・選択 必修
〔授業の目的・ねらい〕 実習の教育効果を上げるため、介護実習前に介護技術の確認を行う。また、実習先のオリエンテーションを受けるための計画・準備を進めるなど、実習に対する総合的な学習とする。 〔授業全体の内容の概要〕 実習のテキストや実習の手引きを参考に、介護実習全般について学び、実習方法や記録の書き方を学習する。また、介護現場について学ぶ。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 ○「介護総合演習」は「介護実習」との組み合わせの学びであることを理解する。 ○介護実習Ⅰにおいて、課題・目標の達成方法を習得できるようにする。			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数 1 ガイダンス/2年間の実習について/実習調書について 2 施設の理解 3 実習施設の理解/配属先発表/個人票説明、下書き作成 4 個人票清書作成 5 個人票完成/実習先の行き方確認 6 接遇について/事前電話の仕方について 7 実習日誌の書き方/身だしなみチェック 8 実習の心得/報告会（原稿：感想）について 9 報告会資料下書き作成 10 報告会発表原稿作成・発表の仕方 11 実習4-① 報告会 12 介護実習4-①評価返却/実習施設の理解 13 実習1配属先発表/個人票作成 14 個人票完成/実習先の行き方確認 15 期末試験（見極めテスト）			
〔使用テキスト・参考文献〕 中央法規出版 「介護総合演習・介護実習」		〔単位認定の方法及び基準〕 試験成績・課題及び意欲、提出物、出席要件等を加味し、総合評価する（基準：60点以上を合格とする）	

授業概要

授業のタイトル（科） 介護総合演習 Ⅱ	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 専任教員
授業の回数 15	時間数（単位数） 30（1）	配当学年・時期 1年 ・ 後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 実習の教育効果を上げるため、介護実習前に介護技術の確認を行う。また、実習先のオリエンテーションをうけるための計画・準備を進めるなど、実習に対する総合的な学習とする。 [授業全体の内容の概要] 実習のテキストや実習の手引きを参考に、介護実習全般について学び、実習方法や記録の書き方を学習する。また、介護現場について学ぶ。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] ○「介護総合演習」は「介護実習」との組み合わせの学びであることを理解する。 ○介護実習2において、課題・目標の達成方法を習得できるようにする。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 ガイダンス 介護実習1にむけて/施設概要作成 2 介護実習1 実習ファイル作成 3 介護実習1 実習に向けての注意事項 4 介護実習1 事前指導 5 介護実習1 報告会にむけて / 報告会資料作成 6 介護実習1 報告会発表原稿作成 7 介護実習1 報告会発表原稿完成 / 準備 8 介護実習1 報告会 9 介護実習2 配属先発表 / 個人票下書き 10 介護実習2 個人票完成 / 施設概要作成 11 介護実習2 課題（情報収集・分析）について 12 介護実習2 課題（情報収集・分析）について 13 振り返り・まとめ 14 期末試験（見極めテスト） 15 実習2事前指導			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 「介護総合演習・介護実習」		[単位認定の方法及び基準] 試験成績・課題及び意欲、提出物、出席要件等を加味し、総合評価する。（基準：60点以上を合格とする）	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目)	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 専任教員
授業の回数 15	時間数 (単位数) 30 (1)	配当学年・時期 2年 ・ 前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護実習2の課題であるアセスメントを振り返り、実習報告会で発表し、体験を共有する。また、介護過程の展開を実践するためのアセスメント方法を学び直す。介護実習4-②、3について実習前の準備ができる。 [授業全体の内容の概要] 介護実習2で行ったアセスメントを報告会にて発表する。また、介護過程実践の準備として発表会において計画を実施する。 介護実習4-②・3について実習前の準備ができる。 [授業修了時の達成課題 (到達目標)] ○「介護総合演習」は「介護実習」との組み合わせの学びであることを理解する。 ○介護実習4-②、介護実習3において、課題・目標の達成方法を習得できるようにする。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 ガイダンス / 実習2報告会について / 原稿下書き確認・修正 2 介護実習2 報告会原稿の作成 3 介護実習2 報告会原稿清書完成 4 介護実習2 報告会原稿清書完成 / 発表原稿作成 / 会場準備 5 介護実習2 報告会 6 介護実習2 振り返り / アセスメントの見直し 7 介護実習2 振り返り 介護計画立案・実施について 8 介護実習2 振り返り 対象者のニーズに応じた介護計画立案 9 介護実習2 振り返り 介護計画発表会 10 介護実習2 評価返却 / 介護実習4-②・3 / 配属発表 個人票作成 11 介護実習4-②・3 個人票完成 /施設概要作成 12 介護実習4-②・3 施設概要作成 / 実習施設の理解 / 13 介護実習4-②・3について / 実習施設の理解 14 見極めテスト 筆記 (介護過程・接遇マナー) 15 事前指導			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 「介護総合演習・介護実習」 実習の手引き・作成したプリント		[単位認定の方法及び基準] 試験成績・課題及び意欲、提出物、出席要件等を加味し、総合評価する。(基準:60点以上を合格とする)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 専任教員
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学年・時期 2年 ・ 後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護実習3においてのまとめができ、発表することができる。 体験を共有することで、自己を振り返り、就職へ向けての方向づけをする。 [授業全体の内容の概要] 事例報告会のための記録をまとめ、発表原稿を作成する。 事例報告会で発表し、体験を共有する。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ○介護実習3終了後のまとめと事例報告会の原稿を作成し、発表する。 ○事例報告会で発表し、体験を共有する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 ガイダンス/今後の流れと介護実習3事例報告会について 2 介護実習3 事例報告会原稿作成 3 介護実習3 事例報告会原稿作成 4 介護実習3 事例報告会原稿作成 5 介護実習3 事例報告会原稿作成 6 介護実習3 事例報告会原稿作成 / スライド作成 7 介護実習3 事例報告会原稿作成 / スライド作成 8 介護実習3 事例報告会原稿作成 / スライド完成 9 介護実習3 事例報告会の発表原稿作成 10 介護実習3 事例報告会の発表原稿完成 11 介護実習3 事例報告会会場準備 / リハーサル 12 事例報告会 13 事例報告会 14 事例報告会の振り返り /介護実習3・4-② 評価返却 15 介護総合演習全体の振り返り			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 「介護総合演習・介護実習」 作成したプリント		[単位認定の方法及び基準] 原稿作成、意欲、発表態度、出欠要件等を考慮し、総合評価する (基準:60点以上を合格とする)	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみⅠ-1		授業の種類 (<u>講義</u>) ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 菅谷 由美子	
授業の回数 15回		時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年 前期		必修・選択 必修
【授業の目的・ねらい】 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する。					
【授業全体の内容の概要】 介護実践の根拠となる人体の構造や機能を学ぶ。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 からだのしくみが理解できる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
コマ数					
1 オリエンテーション からだのしくみの理解① からだのつくりの理解					
2 からだのしくみの理解② 人体の構造と機能 細胞・組織・器官・器官系					
3 からだのしくみの理解③ 脳・神経					
4 からだのしくみの理解④ 感覚器系 (視覚器・平衡聴覚器・嗅覚器・味覚器・皮膚)					
5 からだのしくみの理解⑤ 呼吸器系					
6 からだのしくみの理解⑥ 循環器系 (心臓)					
7 からだのしくみの理解⑦ 循環器系 (血管系・リンパ系)					
8 からだのしくみの理解⑧ 消化器系 (消化管) 消化器系 (消化腺)					
9 からだのしくみの理解⑨ 腎・泌尿器系					
10 からだのしくみの理解⑩ からだのしくみの理解② 骨・筋肉 骨・関節					
11 からだのしくみの理解⑪ 筋肉 神経系					
12 からだのしくみの理解⑫ 生殖器・内分泌					
13 からだのしくみの理解⑬ 血液・体液・リンパ液					
14 まとめ					
15 試験・振り返り					
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 こころとからだのしくみ			【単位認定の方法及び基準】 ノート提出、小テスト・定期試験の結果、及び意欲、出席要件等を考慮し、総合評価とします。 (基準：60点以上を合格)		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみ I-2	授業の種類 (講義 演習 ・ 実習)		授業担当者 井上 典子
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30（ 2 ）	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必須
[授業の目的・ねらい] 介護の技術の根拠となる人間の心理的側面について理解する。特に、人間の欲求の基本的な理解や感情、思考等について学び、QOLを高めるような生活支援ができるための基礎的知識を習得する。また、こころとからだは相互に影響しあい、意欲や行動などへ影響を及ぼしていることを学習する。 [授業全体の内容の概要] 人間を理解する上で大切な精神医学や心理学、社会学などをもとに基礎的な知識を学ぶ。また『健康』の意味や『発達』の観点を身につけ、加齢やさまざまな疾患・障害によってどのような生活障害が生じるのかを理解するための基礎を学ぶ。講義を中心に行い、適宜、ビデオ学習やディスカッション、課題レポートの提出を求める。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 1) 「こころ」のしくみについての基礎的知識を身につける 2) 「こころ」の日常生活への影響についての基礎的知識を身につける 3) こころとからだのしくみを理解した上で、介護場面でのさまざまな配慮や安全の視点を身につける			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 導入 「健康」とはなにか 定義とそれぞれの健康観 2. こころのしくみの理解 について 「わたし」とは何か 3. こころのしくみの理解 について 「欲求」「自己実現と尊厳」について 4. こころのしくみの理解 について 「脳のしくみ」について 5. こころのしくみの理解 について 「感覚・知覚」について 6. こころのしくみの理解 について 「認知のしくみ」について 7. こころのしくみの理解 について 「知能」について 8. こころのしくみの理解 について 「記憶と学習のしくみ」について 9. こころのしくみの理解 について 「思考のしくみ」について 10. こころのしくみの理解 について 「感情・情動のしくみ」について 11. こころのしくみの理解 について 「意欲・動機づけのしくみ」について 12. こころのしくみの理解 について 「適応のしくみ」について1 ストレスのしくみと適応の異常 13. こころのしくみの理解 について 「適応のしくみ」について2 人格と適応 14. こころのしくみの理解 について 「心理アセスメント・心理療法」について 15. まとめと考査 （定期試験）			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 こころとからだのしくみ ※参考文献 経済界ワークシート式 はじめての心理学 著者 井上のり子 ※ 適宜、プリントを配布し、課題を課す		[単位認定の方法及び基準] 成績評価基準 （評価割合を％表示）定期試験 50％ レポート 30％ 授業態度 20％ （基準：60点以上合格）	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみⅡ		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 伊藤 奈津希																														
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 1 年 後期	必修・選択 必修																														
【授業の目的・ねらい】 介護技術の根拠となる人体の構造や機能の理解のもと、介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。 【授業全体の内容の概要】 人体の構造や機能についての基本的な知識をふまえ、意欲や行動などに影響を及ぼす心理的な影響を理解し、それらが日常生活動作にどのように関連してくるのかを認識する。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 日常生活動作に関連したこころとからだのしくみが理解できる。																																	
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 <table><tr><td>1 移動に関連したしくみ</td><td>生活の中の移動とは</td></tr><tr><td>2 移動に関連したしくみ</td><td>移動におけるこころとからだのしくみ</td></tr><tr><td>3 移動に関連したしくみ</td><td>心身の機能低下が移動に及ぼす影響</td></tr><tr><td>4 移動に関連したしくみ</td><td>変化の気づきと対応/医療職との連携</td></tr><tr><td>5 身じたくに関連したしくみ</td><td>身じたくにおけるこころとからだのしくみ</td></tr><tr><td>6 身じたくに関連したしくみ</td><td>心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響</td></tr><tr><td>7 身じたくに関連したしくみ</td><td>変化の気づきと対応</td></tr><tr><td>8 食事に関連したしくみ</td><td>食事のしくみ／消化器のしくみ</td></tr><tr><td>9 食事に関連したしくみ</td><td>心身の機能低下が食事に及ぼす影響</td></tr><tr><td>10 食事に関連したしくみ</td><td>変化の気づきと対応。医療職との連携</td></tr><tr><td>11 入浴・清潔保持に関連したしくみ</td><td>入浴・清潔保持のしくみ</td></tr><tr><td>12 入浴・清潔保持に関連したしくみ</td><td>心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響</td></tr><tr><td>13 入浴・清潔保持に関連したしくみ</td><td>変化の気づきと対応/医療職との連携</td></tr><tr><td>14 まとめ</td><td></td></tr><tr><td>15 試験・振り返り</td><td></td></tr></table>				1 移動に関連したしくみ	生活の中の移動とは	2 移動に関連したしくみ	移動におけるこころとからだのしくみ	3 移動に関連したしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響	4 移動に関連したしくみ	変化の気づきと対応/医療職との連携	5 身じたくに関連したしくみ	身じたくにおけるこころとからだのしくみ	6 身じたくに関連したしくみ	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響	7 身じたくに関連したしくみ	変化の気づきと対応	8 食事に関連したしくみ	食事のしくみ／消化器のしくみ	9 食事に関連したしくみ	心身の機能低下が食事に及ぼす影響	10 食事に関連したしくみ	変化の気づきと対応。医療職との連携	11 入浴・清潔保持に関連したしくみ	入浴・清潔保持のしくみ	12 入浴・清潔保持に関連したしくみ	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響	13 入浴・清潔保持に関連したしくみ	変化の気づきと対応/医療職との連携	14 まとめ		15 試験・振り返り	
1 移動に関連したしくみ	生活の中の移動とは																																
2 移動に関連したしくみ	移動におけるこころとからだのしくみ																																
3 移動に関連したしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響																																
4 移動に関連したしくみ	変化の気づきと対応/医療職との連携																																
5 身じたくに関連したしくみ	身じたくにおけるこころとからだのしくみ																																
6 身じたくに関連したしくみ	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響																																
7 身じたくに関連したしくみ	変化の気づきと対応																																
8 食事に関連したしくみ	食事のしくみ／消化器のしくみ																																
9 食事に関連したしくみ	心身の機能低下が食事に及ぼす影響																																
10 食事に関連したしくみ	変化の気づきと対応。医療職との連携																																
11 入浴・清潔保持に関連したしくみ	入浴・清潔保持のしくみ																																
12 入浴・清潔保持に関連したしくみ	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響																																
13 入浴・清潔保持に関連したしくみ	変化の気づきと対応/医療職との連携																																
14 まとめ																																	
15 試験・振り返り																																	
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 こころとからだのしくみ		【単位認定の方法及び基準】 定期試験の結果、及び意欲、出席要件等を考慮し、総合評価とします。 (基準：60点以上を合格)																															

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみⅢ	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 菅谷 由美子
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修
【授業の目的・ねらい】 介護技術の根拠となる人体の構造や機能を理解のもと、介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。			
【授業全体の内容の概要】 人体の構造や機能についての基本的な知識をふまえ、意欲や行動などに影響を及ぼす心理的な影響を理解し、それらが日常生活動作にどのように関連してくるのかを認識する。			
【授業修了時の達成課題（到達目標）】 日常生活動作に関連したこころとからだのしくみが理解できる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数			
1 オリエンテーション			
2 排泄に関連したしくみ		排尿・排便のしくみ	
3 排泄に関連したしくみ		人工膀胱・人工肛門のしくみ	
4 排泄に関連したしくみ		心身の機能低下が排泄に及ぼす影響	
5 排泄に関連したしくみ		変化の気づきと対応・医療職との連携	
6 休息・睡眠に関連したしくみ		休息・睡眠のしくみ	
7 休息・睡眠に関連したしくみ		心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響	
8 休息・睡眠に関連したしくみ		睡眠障害／変化に気づくためのポイント	
9 人生の最終段階のケアに関連したしくみ		人生の最終段階に関する「死」のとりえ方	
10 人生の最終段階のケアに関連したしくみ		終末期から危篤状態、死後のからだの理解	
11 人生の最終段階のケアに関連したしくみ		終末期における医療職との連携	
12 人生の最終段階のケアに関連したしくみ		「死」に対するこころの理解①	
13 人生の最終段階のケアに関連したしくみ		「死」に対するこころの理解②	
14 まとめ			
15 試験・振り返り			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 こころとからだのしくみ		[単位認定の方法及び基準] ノート提出、小テスト・定期テスト、授業への意欲、出席要件等を加味し、総合評価とします。 (基準：60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名)	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 井上 典子
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必須
[授業の目的・ねらい] 最初に人間の成長と発達について理解したうえで、発達の観点から老化に伴って生じることからだの変化について基礎的知識を学ぶ。また、これらの学習を通して老年期にある人を多面的に理解するとともに、老いや死を肯定的に捉えたり、老年観・人生観・死生観などについて考えたりなどの機会を持つ。 [授業全体の内容の概要] 人間の身体機能と精神機能の年齢に伴う変化とその日常生活への影響についても理解する。まず、発達の観点から『老化』を理解し、次に老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関して、基礎的知識を身につけていく。講義を中心に、適宜、ビデオ学習やディスカッション、課題レポートの提出を求める。 [授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1) 人間の成長と発達の基礎的理解ができる 2) 『老年期』の発達と成熟について理解ができる 3) 老化に伴うことからの変化と、それにより日常生活に及ぶ影響について理解できる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 導入 高齢者の心理理解の必要性 「老年期」には何が起こるか 2. 人間の成長・発達における基礎的知識 「成長・発達の考え方」について 3. 人間の成長・発達における基礎的知識 「成長・発達の原則・法則」について 4. 人間の成長・発達における基礎的知識 「成長・発達に影響する要因」について 5. 人間の発達段階と発達課題 「発達理論」ならびに「発達段階と発達課題」について 6. 人間の発達段階と発達課題 「身体的機能の成長と発達」ならびに「心理的機能の発達」について 7. 人間の発達段階と発達課題 「社会的機能の発達」について 8. 老年期の特徴と発達課題 「老年期の定義」ならびに「老化」について 9. 老年期の特徴と発達課題 「老年期の発達課題」について1 諸理論と諸問題について 10. 老年期の特徴と発達課題 「老年期の発達課題」について2 「老年期をめぐる今日的課題」について 11. 老化にともなうところの変化と生活 「老化にともなう身体的な変化と生活への影響」について 12. 老化にともなうところの変化と生活 「老化にともなう心理的な変化と生活への影響」について 13. 老化にともなうところの変化と生活 「老化にともなう社会的な変化と生活への影響」について 14. 高齢者と健康 「健康長寿に向けての健康」について 15. まとめと考査 (定期試験)			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 発達と老化の理解 ※参考文献 経済界ワークシート式 はじめての心理学 著者 井上のり子 ※ 適宜、プリントを配布し、課題を課す		[単位認定の方法及び基準] 成績評価基準 (評価割合を%表示) 定期試験 50% レポート 30% 授業態度 20% (基準: 60点以上合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 発達と老化の理解Ⅱ	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 今井 訓子
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年 後期	必修
[授業の目的・ねらい] 発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴についての基礎的知識を習得する。 [授業全体の内容の概要] 老化にともなうところとからだの変化と生活への影響について学ぶ。 高齢者に多い病気とその留意点について学ぶ。 [授業修了時の達成課題 (到達目標)] 老化にともなうところとからだの変化と生活について理解できる。 高齢者の健康について理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 身体的機能の成長と発達、加齢にともなう身体機能の全体的低下 老化にともなう身体的な変化と生活への影響 (骨格系・筋系、脳・神経系、感覚器系) 2. 老化にともなう身体的な変化と生活への影響 (循環器系、呼吸器系、消化器系) 3. 老化にともなう身体的な変化と生活への影響 (腎・泌尿器系、内分泌・代謝系、免疫系) 4. 老化にともなう知的機能の変化および社会的な変化と生活への影響 高齢者と健康 5. 高齢者の症状・疾患の特徴 6. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 (骨格系・筋系) 7. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 (脳・神経系) 8. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 (皮膚疾患、感覚器系) 9. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 (循環器系、呼吸器系) 10. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 (呼吸器系、消化器系) 11. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 (腎・泌尿器系、内分泌・代謝系) 12. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 (歯・口腔疾患、悪性新生物、感染症) 13. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 (精神疾患、その他) 14. 保健医療職との連携 15. まとめ・試験			
[使用テキスト・参考文献] 発達と老化の理解 第2版 (中央法規)		[単位認定の方法及び基準] 確認テスト成績、授業態度、集積用検討を加味し、総合評価する。(基準: 60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類		授業担当者
認知症の理解Ⅰ	（ 講義 ）		岩出 義隆
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15	30時間（2）	1年 前期	必修
[授業の目的・ねらい] 認知症に関する基礎知識を獲得し、症状や歴史・理念を学ぶ [授業全体の内容の概要] 認知症の基本的な知識を学び、症状に合わせた対応を身に着ける。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 認知症を理解し、症状や状況に合わせた対応ができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 4/15 認知症のある高齢者の現状と今後 認知症とは何か 4/22 脳のしくみ 5/13 認知症の人の心理 5/20 中核症状の理解 5/26 生活障害の理解 5/27 認知症の診断と重症度 6/10 BPSDの理解① 6/10 BPSDの理解② 6/16 認知症の原因疾患と症状・生活障害 6/17 認知症の治療薬 6/24 認知症の予防 7/1 認知症の人を取り巻く状況 7/8 認知症ケアの理念と支店 7/15 認知症当事者の視点からみえるもの 7/22 試験			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
中央法規出版「介護福祉士養成講座」 13 認知症の理解		試験 80% 授業態度・提出物 20%	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類		授業担当者
認知症の理解Ⅱ	（ 講義 ）		岩出 義隆
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15	30時間（2）	1年 後期	必修
[授業の目的・ねらい] 認知症に関する基礎的知識を活かし、実際にどのようなケアを提供するかを学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 認知症の介護は当事者はもとより、介護者のケアも必要であることを実際にあった話を交えながら学ぶ。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 認知症ケアの実践について理解し、実習で積極的に認知症の方とかかわりを持つことができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 パーセオンセンタードケア 2 アセスメントツール① 3 アセスメントツール② 4 認知症の人とのコミュニケーション 5 認知症の人へのケア① 6 認知症の人へのケア② 7 認知症の人への様々なアプローチ 8 認知症の人の終末期医療と介護 9 環境づくり 10 家屋への支援① 11 家族への支援② 12 介護福祉職への支援 13 地域包括ケアシステムにおける認知症ケア 14 多職種連携と協働 15 試験			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
中央法規出版「介護福祉士養成講座」 13 認知症の理解		試験 80% 授業態度・提出物 20%	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 障害の理解 I	授業の種類 (講義)・(演習)・実習)		授業担当者 本間 直毅
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必 修
障害のある人の身体機能面、心理面、生活のしづらさに関する基礎的知識を習得するとともに、「障害者福祉にかかわる者が持つべき専門性」も視野に入れる。			
【授業全体の内容の概要】 障害の概念について基礎的知識を学び、障害の捉え方、障害者福祉の基本理念を理解していく過程を通して、障害者の介助に不都合を生じさせない心構えを習得できるよう教授する。			
【授業終了時の達成課題 (到達目標)】 ☐ 障害者福祉の基本理念、各法定義を深く理解することができる。 ☐ 障害児・者やその家族のさまざまなニーズを理解した支援のあり方を考えられるようになる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1 障害とは何か。障害を持つことの意味を追体験する。ICF の考え方 2 障害の概念 - 障害のある人の暮らし・わが国における法的定義・歴史的変遷 3 障害者福祉の基本理念 - 「ノーマライゼーション」「リハビリテーション」「インクルージョン」の理解 4 障害者福祉の基本理念 - 「障害者差別解消法」の理解 5 視覚障害のある人の生活 6 聴覚障害、言語機能障害のある人の生活 7 重複障害のある人の生活 8 肢体不自由 (運動機能障害) のある人の生活 9 知的障害のある人の生活 10 精神障害のある人の生活 11 高次脳機能障害のある人の生活 12 発達障害のある人の生活 13 重症心身障害のある人の生活 14 相談支援・多職種連携 15 まとめ・試験 ※ テキストの他、必要に応じて補助教材も使用。また各論・各章のボリュームと授業の進捗状況に応じて、計画されたコマとの統合、若しくは、一つのテーマを2つのコマに分割して進行する場合も有りうる。			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 「障害の理解」		[単位認定の方法及び基準] 試験成績・課題及び意欲、出席要件などを加味し、総合評価する。(基準： 60点以上)	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 障害の理解Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 菅谷 由美子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を学習する。 [授業全体の内容の概要] 障害の医学的・心理的側面の基礎的な知識、家族への支援について学習する。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] ・医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解することができる。 ・障害のある人を支える家族の課題について理解することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション 【障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ】 肢体不自由（運動機能障害）① 2 肢体不自由（運動機能障害）② 3 内部障害（心臓機能障害） 4 内部障害（呼吸器機能障害） 5 内部障害（腎機能障害） 6 内部障害（膀胱・直腸機能障害） 7 内部障害（小腸機能障害） 8 内部障害 (ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害) 9 内部障害（肝機能障害） 10 重症心身障害 11 【障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ】 難病Ⅰ 12 難病Ⅱ 13 【家族への支援】 家族への支援とは/家族の介護力の評価と介護負担の軽減 14 まとめ 15 試験・振り返り			
[使用テキスト・参考文献] 障害の理解（中央法規）		[単位認定の方法及び基準] ノート提出、確認テスト、授業態度、出席要件等をし、総合評価とします。 (基準：60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 医療的ケア	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 菅谷 由美子																																																																								
授業の回数 15回	時間数（単位数） 19.5時間（1単位）	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修																																																																								
【授業の目的・ねらい】 医療的ケアに関連する法制度や倫理、関連職種の役割について理解する。 急変状態へ対応するための基礎知識を習得する。 【授業全体の内容の概要】 医療的ケアが必要とされた歴史と、医療的ケアを行うにあたり必要な倫理的配慮を学ぶ。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 医療の倫理を理解し、呼吸器・消化器の基礎知識を習得する。																																																																											
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 <table border="0"> <tr> <td>1</td><td>なぜ医療的ケアを学ぶのか</td><td>ガイダンス</td><td>医療的ケア実施の基礎</td></tr> <tr> <td>2</td><td>人間と社会</td><td>①個人の尊厳と自立</td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>〃</td><td>②医療の倫理</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td>保健医療制度とチーム医療</td><td>①保健医療に関する制度</td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>〃</td><td>②医行為に関する法律</td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>〃</td><td>③チーム医療と介護職との連携</td><td></td></tr> <tr> <td>4</td><td>安全な療養生活</td><td>①喀痰吸引や経管栄養の安全な実施</td><td></td></tr> <tr> <td>5</td><td>〃</td><td>②救急蘇生</td><td></td></tr> <tr> <td>6</td><td>感染予防と清潔保持</td><td>①感染予防</td><td>②介護職員の感染予防</td></tr> <tr> <td>7</td><td>〃</td><td>③療養環境の清潔、消毒法</td><td></td></tr> <tr> <td>8</td><td>健康状態の把握</td><td>①身体・精神の健康</td><td></td></tr> <tr> <td>9</td><td>〃</td><td>②健康状態を知る項目（バイタルサインなど）</td><td></td></tr> <tr> <td>10</td><td>〃</td><td>③急変状態について</td><td></td></tr> <tr> <td>11</td><td>高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」</td><td>①呼吸のしくみとはたらき</td><td></td></tr> <tr> <td>12</td><td>〃</td><td>②いつもと違う呼吸状態</td><td></td></tr> <tr> <td>13</td><td>〃</td><td>③喀痰吸引とは？</td><td></td></tr> <tr> <td>14</td><td>〃</td><td>④人工呼吸器と吸引</td><td></td></tr> <tr> <td>15</td><td>〃</td><td>⑤子どもの吸引⑥利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意</td><td></td></tr> </table>				1	なぜ医療的ケアを学ぶのか	ガイダンス	医療的ケア実施の基礎	2	人間と社会	①個人の尊厳と自立			〃	②医療の倫理		3	保健医療制度とチーム医療	①保健医療に関する制度			〃	②医行為に関する法律			〃	③チーム医療と介護職との連携		4	安全な療養生活	①喀痰吸引や経管栄養の安全な実施		5	〃	②救急蘇生		6	感染予防と清潔保持	①感染予防	②介護職員の感染予防	7	〃	③療養環境の清潔、消毒法		8	健康状態の把握	①身体・精神の健康		9	〃	②健康状態を知る項目（バイタルサインなど）		10	〃	③急変状態について		11	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」	①呼吸のしくみとはたらき		12	〃	②いつもと違う呼吸状態		13	〃	③喀痰吸引とは？		14	〃	④人工呼吸器と吸引		15	〃	⑤子どもの吸引⑥利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	
1	なぜ医療的ケアを学ぶのか	ガイダンス	医療的ケア実施の基礎																																																																								
2	人間と社会	①個人の尊厳と自立																																																																									
	〃	②医療の倫理																																																																									
3	保健医療制度とチーム医療	①保健医療に関する制度																																																																									
	〃	②医行為に関する法律																																																																									
	〃	③チーム医療と介護職との連携																																																																									
4	安全な療養生活	①喀痰吸引や経管栄養の安全な実施																																																																									
5	〃	②救急蘇生																																																																									
6	感染予防と清潔保持	①感染予防	②介護職員の感染予防																																																																								
7	〃	③療養環境の清潔、消毒法																																																																									
8	健康状態の把握	①身体・精神の健康																																																																									
9	〃	②健康状態を知る項目（バイタルサインなど）																																																																									
10	〃	③急変状態について																																																																									
11	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」	①呼吸のしくみとはたらき																																																																									
12	〃	②いつもと違う呼吸状態																																																																									
13	〃	③喀痰吸引とは？																																																																									
14	〃	④人工呼吸器と吸引																																																																									
15	〃	⑤子どもの吸引⑥利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意																																																																									
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 医療的ケア		[単位認定の方法及び基準] 授業への意欲、出席要件等を加味し、総合評価とします。 ※2年前期に実施する総合テスト90点以上を合格とし、後期演習には、合格が必須条件です。																																																																									

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 医療的ケア	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 菅谷 由美子
授業の回数 24回	時間数（単位数） 36時間（2単位）	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修
【授業の目的・ねらい】 喀痰吸引・経管栄養に必要な人体の構造と機能（小児を含む）を理解する。 急変状態へ対応するための基礎知識を習得する。			
【授業全体の内容の概要】 喀痰吸引に必要な呼吸器における基礎知識を学ぶ。 経管栄養に必要な消化器における基礎知識を学ぶ。			
【授業修了時の達成課題（到達目標）】 呼吸器・消化器の基礎知識を習得する。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数			
1	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」	①呼吸のしくみとはたらき	
2	〃	②いつもと違う呼吸状態	
3	〃	③喀痰吸引とは？	
4	〃	④人工呼吸器と吸引	
5	〃	⑤子どもの吸引⑥利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	
6	〃	⑦呼吸器系の感染と予防（吸引と関連して）	
7	〃	⑧喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認	
8	〃	⑨急変・事故発生時の対応と事前対策	
9	「喀痰吸引」の実施の手順と留意点	①用いる器具と・機材とそのしくみ、清潔の保持	
10	〃	②吸引の技術と留意点	
11	〃	③喀痰吸引にともなうケア	
12	〃	④報告および記録	
13	「高齢者および障害児・者の「経管栄養」	①消化器系のしくみとはたらき	
14	〃	②消化・吸収とよくある消化器の症状	
15	〃	③経管栄養とは	
16	〃	④注入する内容に関する知識	
17	〃	⑤経管栄養実施上の留意点	
18	〃	⑥子どもの経管栄養について⑦利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	
19	〃	⑧経管栄養に関する感染と予防⑨生じる危険、注入後の安全確認	
20	〃	⑩急変・事故発生時の対応と事前対策	
21	「経管栄養」の手順と留意点	①用いる機材とそのしくみ、清潔の保持	
22	〃	②経管栄養の技術と留意点	
23	〃	③経管栄養に必要なケア	
24	〃	④報告および記録	
※筆記試験…講義全体の総合試験		30問 60分	4肢択一
【使用テキスト・参考文献】 中央法規出版 医療的ケア こころとからだのしくみ		【単位認定の方法及び基準】 ノート提出、小テスト、授業への意欲、出席要件等を加味し 総合評価とします。 ※2年前期に実施する総合テスト90点以上を合格とし、後期演習には、合格が必須条件です。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 医療的ケア	授業の種類 (講義 ・ <u>演習</u> ・ 実習)		授業担当者 菅谷 由美子
授業の回数 30回	時間数（単位数） 45時間（2単位）	配当学年・時期 2年 後期	必修・選択 必修
【授業の目的・ねらい】 喀痰吸引・経管栄養の実施における留意点を理解し、実践における技術を習得する。 急変状態へ対応するための救急蘇生法における基礎知識を理解し、必要な技術を習得する。 【授業全体の内容の概要】 喀痰吸引・経管栄養を行う際の基礎知識と実践技術を学ぶ。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 喀痰吸引・経管栄養の実践における基礎知識と実践技術を習得する。			
1	オリエンテーション		
2	喀痰吸引（演習）	①	<口腔内>
3	〃	②	5回以上
4	〃	③	
5	〃	④	
6	〃	⑤	
7	〃	試験	
8	〃	①	<鼻腔内>
9	〃	②	5回以上
10	〃	③	
11	〃	④	
12	〃	⑤	
13	〃	試験	
14	〃	①	<気管カニューレ>
15	〃	②	5回以上
16	〃	③	
17	〃	④	
18	〃	⑤	
19	〃	試験	
20	経管栄養（演習）	①	<胃ろう>
21	〃	②	5回以上
22	〃	③	
23	〃	④	
24	〃	⑤	試験
25	〃	①	<経鼻経管>
26	〃	②	5回以上
27	〃	③	
28	〃	④	
29	〃	⑤	試験
30	救急蘇生法（演習）	試験	
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 医療的ケア メディカ出版 介護職のための喀痰吸引・経管栄養ビジュアルガイド		[単位認定の方法及び基準] 各演習項目ごとに実技試験を実施し、すべての項目に合格することで修了となります。	